

平成29年度

保健福祉学部附属診療センター

年報

目次

I 年度目標と実績

II 診療実績

III 教育実績

IV 研究業績

V 従事者名簿

平成29年度目標と実績のまとめ

目標

- ①医療安全対策の継続実施
 - ★医療安全のための定期点検・安全対策の周知
- ②今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ★診療体制の検討
 - ★備品の計画的な更新
 - ★附属診療センターの存在意義を学内外に発信

実績

- ①医療機関としての安全管理体制整備
 - ◆附属診療センターヒヤリ・ハットの減少
 - ◆診療体制の整備(看護師・非常勤職員)
 - ◆安全対策のための環境整備(転倒予防対策)
 - ◆医療安全研修会の実施
 - (7月12日 嚥下障害と医療安全 井口郁雄先生
 - 12月6日 診療所内での感染症予防対策について 安武繁先生)
- ②教育および研究のための体制の充実
 - ◆実績 初診患者 190名 再診患者 4,494名 リハビリテーション 2,496件
 - 学内実習 98名 学内者見学 266名
 - ◆年報の公開
 - ◆広島県地域リハビリテーションサポートセンター指定施設(平成30年1月1日付)
- ③今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ◆診療体制の整備(看護師・非常勤職員)
 - ◆備品の計画的な更新
 - ◆附属診療センターの広報
 - 教員免許状講習 シティカレッジ 公開講座等
 - ◆オープンキャンパスでの情報発信(見学者約365名)
 - ◆学外者の研修の受け入れ
 - 学外者見学 19名(うち専門職種研修者 6名)

来年度計画

- ①医療安全対策の継続実施
 - ★医療安全のための定期点検・安全対策の周知
- ②今後の役割と施設機能の方向性の検討
 - ★安定的な体制維持にむけての診療機能の検討
 - ★備品の計画的な更新
 - ★備品の計画的な更新
 - ★附属診療センターの存在意義を学内外に発信

H29年度統計

①地域別

地域	初診	再診	実人数	のべ人数
三原市	93	388	481	2,820
尾道市	32	128	160	780
広島市	10	19	29	94
福山市	38	116	154	573
三次市	0	0	0	0
呉市	1	2	3	5
世羅郡	0	13	13	98
豊田郡	0	2	2	6
沼隈郡	0	1	1	1
竹原市	1	20	21	159
廿日市市	1	1	2	17
東広島市	3	8	11	33
府中市	2	16	18	45
安芸郡	2	2	4	17
神石郡	0	3	3	6
庄原市	0	1	1	1
岡山	3	4	7	22
島根県	0	0	0	0
大阪	1	0	1	1
山口	3	1	4	7
九州	0	0	0	0
合計	190	725	915	4,685

②年齢別

年齢	初診	再診	実人数
3歳未満	4	0	4
3歳	3	2	5
4歳	16	4	20
5歳	12	21	33
6歳	40	29	69
小1	16	51	67
小2	10	45	55
小3	9	49	58
小4	6	49	55
小5	5	36	41
小6	6	51	57
中1	5	35	40
中2	8	45	53
中3	4	41	45
高校生	1	59	60
19歳～20歳	3	26	29
21歳～30歳	6	37	43
31歳～40歳	6	11	17
41歳～50歳	7	22	29
51歳～60歳	6	26	32
60歳以上	17	86	103
合計	190	725	915

③初診患者の主診断名

診断名	人数
自閉症スペクトラム	61
知的障害	24
注意欠陥多動障害	35
その他の小児神経疾患	10
発声・嚥下・構音障害	29
難聴	3
その他の耳鼻科疾患	9
高次脳機能障害・認知症・脳血管疾患	3
発作性神経疾患	1
脊髄・神経・筋疾患	4
精神科疾患	1
整形外科疾患	3
その他	7

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
コミュニケーション障害 学科臨床実習Ⅲ	4	24	通年	40	学生1～2名ずつの単位で、神経内科外来診察(原田医師)に同席して見学実習を行い、診療終了後に質疑応答形式のミニ授業を行った。
認知系障害学概論Ⅱ (坊岡担当分)	3	31	通年	8	診療所に来ておられる患者さんのDVDを使用して、成人言語障害の評価方法、分析、訓練などについて実践的な学習機会を提供した。
認知系障害学演習Ⅰ	3	31	通年	2	診療所に来ておられる患者さんのDVDを使用して、成人言語障害の報告に関する実践的な学習機会を提供した。
卒業研究	4	2	通年	14	卒業研究に協力して頂く患者さんの、言語聴覚療法の見学を行い、患者さんや症状に関する理解を深めた。
耳鼻咽喉科学	2	32	前期	1	鼻、咽喉頭の内視鏡検査を学生のボランティアが被験者になって、医師である教員が実際に行った。それぞれの学生はモニターに映る所見について勉強した。
社会福祉概論	2	30	前期	2	医療保険制度、社会福祉制度などで、診療所での診療報酬などの例をあげ、専門性と関連づけて理解の深めた。
拡大代替コミュニケーション特論	4	5	前期		言語聴覚療法を実施した患者さんのDVDを使用して、実践的かつ具体的な理解を深めた。
認知系障害学概論Ⅰ (渡辺担当分)	2	33	4～6月	4	失語症のある患者さんと言語聴覚士のコミュニケーション場面をビデオ撮影し、映像を授業で活用した。
認知系障害学概論Ⅱ (渡辺担当分)	3	25	4～7月	1	失語症のある患者さんと言語聴覚士のコミュニケーション場面をビデオ撮影し、映像を授業で活用した。
感覚統合療法特論	3	30	7月	2	当診療所にも通院しており、地域の放課後等デイサービスを利用している児9名、その他2名の幼児に協力を得て、感覚統合理論に基づいたアセスメントおよび、プログラムを立てて実践した。

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
認知系障害学概論Ⅰ (坊岡担当分)	2	30	後期	4	診療所に来ておられる患者さんのDVDを使用して、成人言語障害の評価方法、分析などについて実践的な学習機会を提供した。
発達障害治療学実習	3	30	9月～1月	6	発達障害をもつ患者10名の協力を得て、学生に作業療法場面の見学、補助を行わせた。学生3名が患者1名を担当し作業療法のプロセスを学習した。
聴覚系障害学概論Ⅰ	2	30	11月	1	聴覚障害のある患者さんに参加いただいて学生との交流会を行い、学生が聴覚障害について理解を深める機会とした。
医療ソーシャルワーク	2	30	11月	1	2年生を対象に、理学・作業・言語のリハビリテーションのための施設、設備の見学・説明を通して、それぞれの役割について理解を深めた。
コミュニケーション障害 診断法	2	31	12, 1月	12	診療センターで撮影した小児の自由遊び場面、検査場面の動画を使った、コミュニケーションの評価演習
理学療法概論Ⅱ	1	32	12月	1	1年次生を対象とし、理学療法士だけでなく作業療法士、言語聴覚士、診療放射線技師といった多職種の業務や実際の治療について見学・説明を行い、理解を深めた。
卒業研究	3	2	12月	1	卒業研究のテーマと研究計画を立てるため、小児科外来で実際の診療を見学した。
発達系障害学演習Ⅱ	3	30	12月	8	診療センター患者に基づいて作成されたペーパー・ペイシエントを使っての評価・訓練計画立案演習
遂行分析学	2	31	12月	4	2年次生対象の遂行分析学において、診療センターのクライアントに協力を依頼し、食器を洗う、トーストと飲み物を用意する、洗濯物をたたむ、掃除機をかけるなどの日常生活の作業をしている所をビデオ撮影し、教材として活用した。

Ⅲ 教育実績

【授業・見学】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
チーム医療福祉演習	4	11	12月	1	4年次生の班で失語症当事者の体験談, 医療・福祉についての思いを伺い, 理解を深めた。コミュ学科以外の学生は失語症当事者と接するのは初めてで、貴重な経験となった。
作業科学実習 I	1	31	1月	1	1年次生を対象とし, 診療センターのクライアントに授業に来てもらい, 受傷前, 受傷後の生活における作業とその変化等について講義をしてもらい, 理解を深めた。
社会福祉実習指導Ⅲ	2	3	3月	4	神経内科の診察に同席し, 疾患の特性や患者・家族のニーズについて理解を深め, また医師, ソーシャルワーカーの対応を学んだ。

【実習】

科目名	学年	人数	期間	回数	内容
臨床実習Ⅱ	3	5	4～7月	8(+4)	学内実習として、学生は2, 3名の班で失語症の2症例を担当し、情報収集, 評価, 訓練を行った。さらに、運動障害性構音障害+嚥下障害, 音声障害の2症例の訓練もそれぞれ見学した。
臨床実習Ⅲ	4	24	4～8月	12	患者さんの了解を得て、耳鼻科医師による診察場面を見学した。各学生が2-3名のグループになり1回の見学を行った。
臨床実習Ⅲ	4	24	4～9月	24	患者さんの了解を得て、小児科医師による診察場面を見学した。各学生が1回の見学を行った。
臨床実習Ⅲ	4	24	4～12月	12	患者さんの了解を得て、神経内科医師による診察場面を見学した。各学生が2-3名のグループになり1回の見学を行った。
臨床実習Ⅱ	3	28	4～2月	104	言語聴覚障害をもつ患者の協力を得て、学生1人につき年間8回の評価, 計画立案, 言語療法実施, 報告書作成を行った。
臨床実習Ⅰ	2	29	6～12月	30	言語聴覚障害を持つ患者の協力を得て、学生に言語療法場面の見学を行わせた。学生2～3名が1組になり、1組当たり3回異なる患者を見学した。
総合臨床実習Ⅱ 補充実習	4	1	7月	2	総合臨床実習Ⅱの補充実習を1名の学生に対して行った。学生は2症例担当し、カルテからの情報収集, 医療面接, 評価を実施した。
耳鼻咽喉科外来実習	4	26	4月～8月	10	耳鼻咽喉科外来で、実際の患者あるいは模擬患者を対象として問診の取り方, 鑑別診断, 治療方針などについて2～3名ごとのグループで実習を行った。
臨床実習Ⅰ	2	31	2月	5	診療センターで撮影した小児の自由遊び場面, 検査場面の動画を使った, コミュニケーションの評価演習

【卒業研究】

卒業論文タイトル
ハイレゾリューション音楽が身体動揺に及ぼす影響について
咀嚼嚥下の嚥下音による時間的検討
咀嚼嚥下での食塊咽頭流入の内視鏡による観察 —健康常人での検討—
アプリの使用に向けた階層構成版とスクロール版の比較 —記憶障害・純粋失読の場合—
アプリの使用に向けた階層構成版とスクロール版の比較 —失語症の場合—
ラベンダー香料が作業中のストレスに与える影響
ペットボトル蓋明け操作における筋活動と主観的評価
片麻痺者への下衣操作を安定に行うための提言
療育施設ほぼらの果たした役割と今後の課題
純粋失読一例に対する音声読み上げ機能活用効果の検討
アプリの使用に向けた階層構成版とスクロール版の比較 —記憶障害・純粋失読の場合—
アプリの使用に向けた階層構成版とスクロール版の比較 —失語症の場合—
特別支援教育と言語聴覚士が連携する際にも求められるコンピテンシーとは？
自閉スペクトラム症児に対する療育場面の違いによる行動差異 —構造化の度合いによる検討—

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
感覚—運動機能研究のための実験システム 開発環境の構築と医工連携	日本神経回路学会誌 23(4) 153 - 161	福田浩士, 国重雅史, 飯田忠行, 宮口英樹, 原田俊英	平成28年2月
肥満傾向にある学童期の発達障がい児への 看護介入プログラムの効果 肥満度, 生活習 慣の認識・行動の変化	人間と科学: 県立広島 大学保健福祉学部誌 16(1) 53-62	鴨下 加代, 土路生 明 美, 林 優子	平成28年3月
Relationship between the characteristics of lumbago of Parkinson's disease and efficacy of Neurotrophin in aged patient.	International Medical Journal 23(6) 715 - 717	Harada T, Ishizaki F, Nitta Y, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Chikamura C, Nitta K	平成28年12月
Influences of high-resolution music box sounds on the peripheral vascular system.	International Medical Journal 23(6) 709 - 711	Harada T, Moriwaki Y, Ito S, Ishizaki F, Yamamoto R, Niyada K, Miyazaki H, Nitta Y, Aoi S, Ikeda H, Tadayuki Iida T, Nitta K	平成28年12月
Psychological stressor affects autonomic cardiovascular function and peripheral circulation.	International Medical Journal 23(6) 611 - 614	Harada T, Aoi S, Ishizaki F, Ikeda H, Inoue M, Tamura N, Nitta Y, Koide R, Sakai A, Mibu M, Imaizumi S, Nitta K	平成28年12月
ハイレゾリューション・オルゴール音の量子 化ビット数の違いが自律神経機能に及ぼす 影響	診療と新薬 54(2) 137 - 140	伊藤祥史, 原田俊英, 石崎文子, 山本竜太, 二矢田勝行, 宮崎洋 幸, 野崎真美, 辻道菜 歩, 末廣憲治	平成29年2月
ハイレゾリューション・オルゴール音による自 律神経機能への影響について	診療と新薬 54(2) 133 - 136	伊藤祥史, 原田俊英, 山本竜太, 二矢田勝 行, 宮崎洋幸, 末廣憲 治, 石崎文子	平成29年2月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
Study of objective evaluation of effect of psychological relaxation using classic music.	International Medical Journal 24(1) 31 - 33	Harada T, Ishizaki F, Ito S, Aoi S, Miyaguchi M, Ikeda H, Nitta Y, Mibu M, Iida T, Chikamura C, Tamura N, Nitta K	平成29年2月
Changes in biomarkers of psychological stress and bone resorption markers in young females with and without depressive symptoms during different menstrual phases.	International Medical Journal 25(1) 66	Iida T, Inoue K, Ito Y, Ishikawa H, Kagiono M, Chikamura C, Nagaoka K, Harada T, Teradaira R	平成29年2月
健常者における嚥下時の喉頭運動速度の解析-食塊の粘性度が喉頭運動速度に及ぼす影響-	嚥下医学 6(1) 79-85	中尾雄太, 大西英雄, 土師知行, 城本修 他	平成29年2月
反復唾液嚥下での嚥下時間および間隔の加齢による影響について-耳内嚥下音による解析-	嚥下医学 6(1) 92-99	土師知行, 相沢梨奈	平成29年2月
日本・ドイツ・中国の認知症高齢者の実態と施策の国際調査	人間と科学 17(1) 73 - 82	細川淳嗣, 西田征治, 國定美香, 三原博光, 原田俊英	平成29年3月
不器用を主訴とする児への感覚統合療法の効果-事例検討-	感覚統合研究 17 1-15	山西葉子, 土田玲子, 新庄玉恵, 立山清美, 伊藤祐子, 有川真弓, 赤松めぐみ, 山田孝	平成29年3月
嚥下内視鏡検査が嚥下動態に与える影響について -内視鏡挿入の有無および外径についての検討-	人間と科学 17(1) 17-22	小川真奈, 土師知行, 中村悟, 飯田忠行	平成29年3月
幼児期における自閉症スペクトラム障害児の自己評価-「心の理論」との関連-	言語聴覚研究 14(1) 23-31	小島理恵子, 玉井ふみ	平成29年3月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
小児慢性特定疾患で長期入院をした患児への看護師が行う復学支援に関する文献検討	看護・保健科学研究誌 17(1) 158-165	元村 舞, 鴨下 加代, 土路生 明美	平成29年3月
看護師と病棟保育士の専門性を活かした連携に関する文献検討	看護・保健科学研究誌 17(1) 150-157	高橋 佳奈子, 土路生 明美, 鴨下 加代	平成29年3月
NICU退院児の父親への育児支援：父親への面接より	看護・保健科学研究誌 17(1) 101-108	角田 綾香, 土路生 明美, 鴨下 加代	平成29年3月
学年進行と共に段階的に進める「看護の統合と実践」における教育に関する研究：各論実習前に実施した統合実習の教育的有用性と課題の検討	人間と科学：県立広島大学保健福祉学部誌 17(1) 31-41	今井 多樹子, 岡田 麻里, 永井 庸央, 船橋 眞子, 井上 誠, 近藤 美也子, 木村 幸生, 土路生 明美, 松森 直美	平成29年3月
実習における看護学生のコミュニケーションスキル自己評価の変化(第2報)各学年次の実習前後の自己評価得点の伸び率に着目して	看護・保健科学研究誌 17(1) 109-118	土路生 明美, 井上 誠, 伊藤 良子, 船橋 眞子, 三宅 由希子, 岡田 麻里	平成29年3月
濃縮果汁還元レモン水による唾液分泌刺激が反復唾液嚥下に及ぼす影響--耳内嚥下音を指標とした検討--	音声言語医学 58(2) 135-142	土師知行	平成29年4月
The Effects of a calcium-fortified lemon drink on bone density and bone metabolism in postmenopausal women.	International Medical Journal 24(3), 279-283	Ikeda H, Iida T, Hiramitsu M, Inoue T, Okada M, Yoshikawa K, Goto T, Shigematu S, Watanabe M, Kanbara Y, Kita S, Kunimura K, Harada T	平成29年6月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
Effects of nordic walking-based intervention on the physical strength, motor ability, lifestyle-related disease indices, and bone mineral density level: In comparison with normal walking.	International Medical Journal 24(3), 284-287	Iida T, Takahashi S, Hasegawa M, Shiokawa M, Tanaka S, Ikeda H, Aoi S, Chikamura C, Ishizaki F, Harada T	平成29年6月
Efficacy of dysphagia rehabilitation and nutritional management in the acute care hospital	Innovation in Aging1(S1) 302, https://doi.org/10.1093/geroni/igx004.1120	Yamori M, Higashiyama H	平成29年6月
Understanding by preschool and school-age children of emotions expressed by the spoken voice	音声言語医学 58(3): 228-236.	Horie M, Tamai F	平成29年7月
医療・介護施設における食事介助の現状と課題	第29回日本嚥下障害臨床研究会抄録集28	矢守麻奈, 澤柳昌江	平成29年7月
Exploring a method for evaluation of preschool and school children with autism spectrum disorder through checking their understanding of the speaker's emotions with the help of prosody of the voice	Brain and Development 39: 836-845.	Mayumi HORIE, Hitoshi OKAMURA	平成29年7月
急性期病院における摂食嚥下リハビリテーションと栄養管理の効果	言語聴覚研究 14(3)174	東山寛隆, 石岡千夏, 中司佳代, 前川香, 土本正弘, 矢守麻奈	平成29年9月
The considerations of feeding dysphagic patients in hospitals and long-term care facilities	APCSLH2017 148	Yamori M, Sawayanagi A	平成29年9月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
強直性脊椎炎を基礎疾患とする竹節状声帯例	音声言語医学 58(4) 346-349	白井裕美子, 土師知行, 末廣篤, 前川圭子, 雲井一夫	平成29年10月
Correlation between changes of contralesional cortical activity and motor function recovery in patients with hemiparetic stroke.	Physical Therapy Research 20(2): 28-35	Matsuura A, Karita T, Nakada N, Fukushima S, Mori F	平成29年10月
Time course of changes in corticospinal excitability after short-term forearm/hand immobilization.	NeuroReport 28(16): 1092-1096	Karita T, Matsuura A, Kondo Y, Tomimura K, Nakada N, Mori F	平成29年11月
Aged-dependent contributions of neck circumference to indices of obesity among female college students aged 18 to 20 years.	Hiroshima J Med Sci 66(4): 109-115	Nitta Y, Miki Y, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Chikamura C, Tamura N, Nitta K, Miyaguchi H, Harada T, Ishizaki F	平成29年12月
新しい耳管開大検知システム (phototubometry)の開発とその有用性	耳鼻咽喉科臨床学会 110(12) 857-863	土師知行, 松橋賀奈子	平成29年12月
絵の呼称プロセス-意味・統語(品詞)・音韻の影響	高次脳機能研究 37(4) 403-412	渡辺真澄, 中村あかね, 佐久間真理, 津田哲也, 箕一彦, 辰巳格	平成29年12月
脳における言語の神経機構(特集 声とことばの異常-検査所見と診断のポイント 言語の異常)	Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery 34(2) 235-238	渡辺真澄, 辰巳格	平成30年2月
特別支援学校における教員と作業療法士の連携-教員へのアンケート調査より-	人間と科学 18(1) 79-88	古山千佳子, 高木雅之, 吉岡和哉	平成30年3月

IV 研究業績

【論文】

論文名	雑誌名, 巻号頁	著者名	発表年月日
ヘッドホンから出力したハイレゾリューション・オルゴール音による自律神経機能への影響	自律神経 54(2) 130- 136	伊藤祥史, 原田俊英, 山本竜太, 二矢田勝 行, 石崎文子, 宮崎洋 幸	平成29年

【著書】

タイトル	著者名	担当範囲	出版社	出版年月日
言語治療ハンドブック 第2章自閉症スペクトラム障害	玉井 ふみ	分担執筆	医歯薬出版	平成29年3月
言語聴覚士のための臨床実習テキスト小児編 第3章言語聴覚療法の評価・診断の知識 1 知的障害領域	玉井 ふみ	分担執筆	建帛社	平成29年5月
第9章 言語聴覚療法(真柄彰・鴨下博(編)メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ リハビリテーション概論)	長谷川 純	分担執筆	理工図書	平成29年10月
音響サイエンスシリーズ17 聞く と話すの脳科学 第5章 脳における音声の知覚と生成-言語の加齢変化と失語症-	辰巳 格, 渡辺 眞澄	分担執筆	コロナ社	平成29年11月
子どもの感覚運動機能の発達と支援-発達科学と理論を支援に活かす-	山西葉子	分担執筆	メジカルビュー	平成30年2月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
Measurement of low back muscle fatigue and recovery time during and after isometric endurance test	Mori D, Sumii H, Shiokawa M, Kunisada M, Harada T	7th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics and the Affiliated Conferences (AHFE 2016)	平成28年8月
アミューズメントを介した高齢者の交流における自律神経機能・睡眠への影響ーデイサービスにおける1か月間の導入事例からの検討ー	川畑なみ, 宮口英樹, 國重雅史, 石附智奈美, 伊藤康宏, 原田俊英, 石崎文子, 飯田忠行	第28回日本老年医学会中国地方会	平成28年11月
高齢者とのコミュニケーション:コミュニケーションの基本、コミュニケーションが困難になる病気とコミュニケーション技法	矢守 麻奈	緩和基準型訪問サービス三原市認定生活支援員研修会	平成29年1月
高齢者の食事:高齢期の栄養と食事、摂食・嚥下障害の理解と対応	矢守 麻奈	緩和基準型訪問サービス三原市認定生活支援員研修会	平成29年1月
老人福祉施設の食事に関する発表についての助言・審査	矢守麻奈	平成28年度老人福祉施設等研究発表会	平成29年2月
摂食嚥下機能の加齢性変化への対応	矢守麻奈	第4回食品ユニバーサルデザイン研究会	平成29年2月
耳内嚥下音による反復唾液嚥下検査の信頼性と反復唾液嚥下の日差変動について	土師知行	第40回 日本嚥下医学会	平成29年2月
メタボ・骨代謝関連データのみかた	原田俊英	高齢者疾患の保健・医療・介護・福祉支援プログラム「平成28年度健骨・健康増進セミナー」	平成29年3月
学習障害の気づきと支援マニュアルの作成と発達支援	林優子	第19回広島発達研修会	平成29年4月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
ケプstram分析を中心とした音声障害の評価---Cepstral Spectral Index	土師知行	第29回 日本喉頭科学会	平成29年4月
A literature review on Alcohol Drinking among Young Adult Survivors of Childhood Cancer	Akemi Torobu,Kayo Kamoshita	The 3rd Conference on Public Health in Asia	平成29年4月
県立広島大学と三原市医師会との連携について	原田俊英	三原市医師会「八日会」	平成29年5月
Five cases of autism spectrum disorder with syntaxin1A gene haploidy	Takefumi Kofuji Yuko Hayashi, Tomonori Fujiwara, Masao Tamaru Kimio Akagawa	14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology Fukuoka	平成29年5月
言語聴覚士の仕事と失語症：他の専門職との連携を見据えて	渡辺 眞澄	平成29年度 日本学校心理士会愛媛支部研修会	平成29年5月
音声改善手術	土師知行	第118回日本耳鼻咽喉科学会モーニングセミナー	平成29年5月
発達外来の機能向上に向けた地域支援との協働システムの構築	林優子	第59回日本小児神経学会学術集会	平成29年6月
模擬難聴システムの教育・臨床・研究への適用	長谷川純, 吐師道子, 山下祐季, 畑山春菜, 松井淑恵, 入野俊夫	第1回広島県言語聴覚士会学術集会	平成29年6月
主催・座長・資料翻訳・通訳: 頸損・脊損のリハビリテーション医学 (Shem K) 頸損・脊損のリハビリテーションと米国における言語聴覚士の職務実態について (Castillo K)	矢守麻奈	国際摂食嚥下リハビリテーションフォーラム	平成29年6月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
認知症高齢者に対する誤嚥性肺炎の予防の検討	狩谷明美, 西本朱里, 山下裕史, 森田雅子, 井上雅雄, 矢守麻奈, 神出計	第59回日本老年医学会	平成29年6月
座長:一般演題(口述)⑩摂食嚥下:ワレンベルク症候群	矢守麻奈	第18回日本言語聴覚学会	平成29年6月
急性期リハビリテーション病院における摂食嚥下リハビリテーションと栄養管理の効果	東山寛隆, 矢守麻奈	第18回日本言語聴覚学会	平成29年6月
認知症と生活習慣病. 脳と身体のいきいきトレーニング～認知症予防講座～	原田俊英	三原シティカレッジ2017	平成29年7月
生活習慣を見直して認知症を予防する	原田俊英	平成29年度県立広島大学公開講座「脳と身体のいきいきトレーニング～認知症予防講座～」	平成29年7月
認知症について	原田俊英	県立広島大学高大連携公開講座	平成29年7月
失語症友の会における文字によるコミュニケーション支援の現状と認識	伊賀琢朗, 長谷川純	第43回日本コミュニケーション障害学会学術講演会	平成29年7月
失語症者に対する階層性コミュニケーションアプリの有効性の検討	北村楓子(H28年度卒), 坊岡峰子他	第43回日本コミュニケーション障害学会学術講演会	平成29年7月
聴覚的理解障害に対する評価と介入	津田哲也, 中村光	第43回日本コミュニケーション障害学会学術講演会	平成29年7月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
Efficacy of dysphagia rehabilitation and nutrition management in the acute care hospital	Yamori M, Higashiyama H	The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics	平成29年7月
医療・介護施設における食事介助の現状と課題	矢守麻奈, 澤柳昌江	第29回日本嚥下障害臨床研究会	平成29年7月
地域ネットワークによる発達支援	林優子	三原シティカレッジ' 17	平成29年7月
Influence of interaction among the elderly through amusement on their salivary amylase and autonomic nervous system activity: One-month introduction at a day care service center for the elderly	Kawabata N, Miyaguchi H, Kunishige M, Ishizuki C, Ito Y, Harada T, Iida T	The International Society for Autonomic Neuroscience 2017 (ISAN2017)	平成29年8月
Effects of high-resolution musical box sounds on the autonomic nervous function and findings from order changes of hearing sounds	Ito S, Harada T, Yamamoto R, Niyada K, Miyazaki H, Suehiro K, Ishizaki F	The International Society for Autonomic Neuroscience 2017 (ISAN2017)	平成29年8月
中枢神経系による歩行運動の制御	森大志	第4回大山セミナー	平成29年8月
失語症向け階層性コミュニケーションアプリの有効性に関する基礎的研究	坊岡峰子, 北村楓子 (H28年度卒) 他	第32回リハ工学カンファレンスin神戸	平成29年8月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
A literature review on ALDH2 and Alcohol Drinking in East Asian college students	Akemi Torobu,Sobue Ikuko,Kazuyo Funakoshi,Katsuko Okimoto,Kazuyo Ikeuchi	The 3rd International Conference on Advancing the Life Sciences and Public Health Awareness	平成29年8月
発達障害の診断と治療の実際	林優子	平成28年度教員免許状更新講習	平成29年8月
発達評価の利用の仕方	堀江真由美	平成29年度教員免許状更新講習	平成29年8月
学習障害への対応とコミュニケーション・スキルの指導	細川淳嗣	平成29年度教員免許状更新講習	平成29年8月
発達障害児の行動理解とその指導	山西葉子	平成29年度教員免許状更新講習	平成29年8月
中枢神経障害の基礎知識	林優子	平成29年度教員免許状更新講習	平成29年8月
コミュニケーションへの支援	玉井ふみ	平成29年度教員免許状更新講習	平成29年8月
姿勢・運動への支援	島谷康司	平成29年度教員免許状更新講習	平成29年8月
不適応行動に対する支援	古山千佳子	平成29年度教員免許状更新講習	平成29年8月
Effects of high-resolution sound output from portable audio equipment on autonomic nervous function.	Ito S, Harada T, Yamamoto R, Niyada K, Miyazaki H, Suehiro K, Ishizaki F	XXIII World Congress of Neurology (WCN 2017)	平成29年9月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
経頭蓋直流電気刺激による歩行 ー認知課題の機能向上効果	篠田亮平, 松浦 晃宏, 石川衛, 苅 田哲也, 森大志	第31回中国ブロック理学療法士 学会	平成29年9月
立位時における平地及び傾斜板 上でのアキレス腱振動刺激がそ の後の足圧中心に及ぼす影響	石川衛, 篠田亮 平, 松浦晃宏, 福 島卓, 森大志	第31回中国ブロック理学療法士 学会	平成29年9月
栄養サポートと摂食嚥下リハビリ テーションー摂食嚥下機能と食事 形態ー	矢守麻奈	日本静脈経腸栄養学会認定NST 専門療法士研修会	平成29年9月
The considerations of feeding dysphagic patients in hospitals and long-term care facilities	Yamori M, Sawayanagi A	10th Biennial Asia Pacific Conference on Speech, Language and hearing	平成29年9月
自閉症スペクトラムの理解と支援	林優子	平成29年度広島県発達障害児・ 者診療医養成研修	平成29年9月
ことばを育てる関わり方のヒント	玉井ふみ	第47回尾道発達障害児支援 フォーラム	平成29年10月
高齢者とのコミュニケーションの際 の留意点(高齢性難聴, 失語症, 運動障害性構音障害, 認知機能 低下)	矢守麻奈	三原市認定生活支援員養成講座	平成29年10月
高齢者の食事(栄養, 摂食嚥下の 機能・障害・リハ・障害予防)	矢守麻奈	三原市認定生活支援員養成講座	平成29年10月
Developing an inclusive society care system in Japan	Kriya A, Mizuma T Yamori M et al.	TNMC & WANS International Nursing reseach Conference	平成29年10月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
療育施設ぽぽらの14年間の総括	林優子	平成29年度第3回三原市小児科医学会	平成29年11月
Cortical plasticity and bipedal walking.	森大志	第71回日本人類学会	平成29年11月
就学に向けてやっておきたいこと	佐藤紀代子	岡山かなりや学園 保護者研修会	平成29年11月
高齢者における摂食嚥下機能変化の発見と対応	矢守麻奈	広島県歯科衛生士会 介護予防口腔機能向上研修会 臨床研修b 摂食・嚥下機能療法の基本技術	平成29年11月
知って得する認知症予防について	原田俊英	第706回広島経営同友会定例会講演会	平成29年12月
A literature review on ALDH2 and Alcohol Drinking in Japanese college students	Akemi Torobu, Sobue Ikuko, Kazuyo Funakoshi, Katsuko Okimoto, Kazuyo Ikeuchi	Healthcare Without Borders 2017	平成29年12月
知って得する！認知症の診断・治療・予防	原田俊英	広島市南区老人クラブ連合会・友愛活動シルバリーリーダー研修会	平成30年2月
みんなでつくろう ゆめのまち — 表現と思いを伝え合う保育活動—	玉井ふみ	平成29年度第3回熊野町幼保小中教育推進協議会	平成30年2月
小児期に何を見据えて指導を試みるか	佐藤紀代子	人工内耳教育セミナーin大阪	平成30年2月
老人福祉施設の食事に関する発表についての助言・審査	矢守麻奈	平成29年度老人福祉施設等研究発表会	平成30年2月

【学会発表・講演】

注)学会発表は口演・ポスター発表を含みます。

タイトル	講演者名	会議名	開催年月日
高齢者施設における食生活の支援	矢守麻奈	平成29年度老人福祉施設等研究発表会	平成30年2月
構造適応型 Deep Belief Network を用いた癌予測結果とその階層成長型自己組織化マップによる特徴分析の試み (Prediction Result of Cancer by Adaptive Structural Learning of Deep Belief Network and Approach for Its Feature Analysis by Growing Hierarchical SOM)	鎌田 真, 市村匠, 原田俊英	第19回自己組織化マップ研究会 2018 (19th Annual Meeting of Self-Organizing Maps in JAPAN 2018)	平成30年3月
パーキンソン病診療の実際～ケース・スタディから～	原田俊英	学術講演会(主催:大塚製薬株式会社)	平成30年3月
短下肢装具による短時間の足関節固定が皮質脊髄路興奮性と歩行へ及ぼす影響	苅田哲也, 松浦晃宏, 近藤至宏, 森大志	第16回歩行と姿勢研究会	平成30年3月
摂食嚥下リハビリテーションと栄養管理の効果	矢守麻奈	公益財団法人健和会リハビリテーション研修会	平成30年3月

【外部資金】

タイトル	代表研究者名	制度名	研究期間
耳内嚙下音および頸部光ファイバーセンサによる非侵襲嚙下解析システムの有用性の検討	土師知行	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成26～27年度 (平成28年度延長)
学童期以降小児がん経験者のための外来における健康教育プログラムの開発	土路生明美	科学研究費補助金 (若手研究B)	平成26～29年度
ヒトはなぜ二足で歩けるのか？哺乳類モデルから探る二足歩行の戦略とその進化	平崎鋭矢(京都大学) 分担:森大志	科学研究費補助金 (基盤研究B)	平成27～29年度
幼児期の自閉症スペクトラム児に対する感覚統合療法～非ランダム化比較試験	大阪府立大学 立山清美 (分担山西葉子)	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成27～29年度
セルフメディケーションのための簡易型呼気圧測定器の開発	狩谷明美(分担:矢守麻奈)	広島県商工労働部ひろしま医療関連産業創出事業(弓場汽船よりの受託研究)	平成28～30年度
動詞活用の乱れは、音韻、意味の乱れと、悪い友達	渡辺 眞澄	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成29～31年度
学齢期にある肥満症の発達障がい児への運動習慣に焦点を当てた看護介入の検討	鴨下加代	科学研究費補助金 (基盤研究C)	平成29～32年度

V 従事者名簿

医師

小児科	林 優子
リハビリテーション科	沖 貞明
内科	安武 繁
精神科	藤巻康一郎
耳鼻咽喉科	土師知行
神経内科	原田俊英
整形外科	住居広士
脳神経外科	森 大志

看護師

看護師	土路生明美
	鴨下加代
	日高陵子
	青井聡美
	池田ひろみ
看護師（専任）	井上セツ子
	大亀昭子
医療事務受付	塩崎恭子
	田坂春美
	村田智子

非常勤専門職員

看護カウンセラー	山本映子
小児理学療法士	清水ミシェルアイズマン
心理士	門田翔太
臨床検査技師	児玉祐子
作業療法士	新庄玉恵
作業療法士	増田久美子

コメディカル

看護師	土路生明美
	鴨下加代
	日高陵子
	青井聡美
	池田ひろみ
理学療法士	金井秀作
	島谷康司
	長谷川正哉
	梅井凡子
	積山和加子
	高宮尚美
	金指美帆
作業療法士	佐藤勇太
	武本秀徳
	西田征治
	吉川ひろみ
	古山千佳子
	小池好久
	高木雅之
	永吉美香
	山西葉子
	吉岡和哉
西村玲子	
言語聴覚士	堀江真由美
	坊岡峰子
	細川淳嗣
	吐師道子
	玉井ふみ
	小澤由嗣
	長谷川純
	城本 修
	矢守麻奈
	佐藤紀代子
	渡辺眞澄
	津田哲也
	中村 文
放射線技師	中村 悟
	飯田 忠行
社会福祉士	永野なおみ